

## 障害科学学位プログラム（博士後期課程）

Doctoral Program in Disability Sciences

- 博士（障害科学）
- Doctor of Philosophy in Disability Sciences

## 人材養成目的 / Program Educational Objectives

障害に関連する多様な課題に即した先進的研究を行うとともに、グローバルな視点に立った障害科学関連分野における先導的教育を行うことのできる研究者等を養成する。

<b>養成する人材像</b>	障害のある人に関連する諸問題に対して、科学的な視点から、専門的な問題解決が可能な人材。具体的には、障害に関して幅広い知識を有し問題解決に寄与することができると共に、現実場面での問題の中から研究課題を見出すことができる人材。また、その課題を解決するために、協力者とともに研究計画ならびに研究の実行を推進することが可能な人材。
<b>修了後の進路</b>	高等教育機関の教員あるいは独立行政法人等における研究者または研究能力を有する高度専門職業人

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学大学院学則及び関係規則に規定する博士後期課程の修了の要件を充足したうえで、次の知識・能力を有すると認められた者に、博士（障害科学）の学位を授与する。

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	1. 知の創成力：未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	①新たな知の創成といえる研究成果等があるか ②人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	<u>視覚障害講究 I・II・III、聴覚障害講究 I・II・III、知的・発達・行動障害講究 I・II・III、運動障害・病弱講究 I・II・III、音声・言語障害講究 I・II・III、障害福祉学講究 I・II・III、障害原理論講究 I・II・III、博士論文作成、学会発表、論文投稿</u> （下線部は選択必修科目あるいは修了要件）
	2. マネジメント能力：俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	①重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ②専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	<u>障害科学研究実践法、博士論文作成、学会発表、論文投稿、相談活動</u> （下線部は必修科目）
	3. コミュニケーション能力：学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	①異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ②専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えとともに、質問に的確に答えることができるか	<u>障害科学研究実践法、障害科学フィールドワーク・アドバンス I・II・III、海外研究活動 I・II、博士論文デザイン・中間・最終発表、学会発表</u> （下線部は必修科目あるいは修了要件）
	4. リーダーシップ力：リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	①魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ②目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	<u>障害科学研究実践法、博士論文作成、TA・TF 経験、相談活動</u> （下線部は必修科目）

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	5. 国際性：国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	①国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ②国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	海外研究活動Ⅰ・Ⅱ、視覚障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、聴覚障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、知的・発達・行動障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、運動障害・病弱講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、音声・言語障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害福祉学講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害原理論講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、博士論文作成、国外での活動経験、外国人（留学生を含む）との共同研究、国際会議発表、英語論文投稿（下線部は選択必修科目）
	6. 研究発想力：障害科学に関する課題を発見し、独創的な研究を生み出す能力	①専門的な立場から障害科学に関する研究課題を見出し設定することができるか ②独創的な研究計画で障害科学に関する課題解決を図ることができるか	視覚障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、聴覚障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、知的・発達・行動障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、運動障害・病弱講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、音声・言語障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害福祉学講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害原理論講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、博士論文デザイン・中間発表（下線部は選択必修科目あるいは修了要件）
	7. 研究計画実行力：障害科学に関する先端的な研究を計画実行する能力	①障害科学に関する重要な課題に対して長期的な研究計画を立案することができるか ②立案した研究計画に基づき、かつ適宜修正を行い、障害科学に関する研究を実行することができるか	視覚障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、聴覚障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、知的・発達・行動障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、運動障害・病弱講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、音声・言語障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害福祉学講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害原理論講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、博士論文デザイン・中間・最終発表、博士論文の作成（下線部は選択必修科目あるいは修了要件）
	8. 研究発信力：障害科学に関する研究成果を学術雑誌を通じて発信する能力	①授業等で障害科学に関する自らの研究成果を発表し討論することができるか ②障害科学に関する自らの研究成果を学術雑誌等に発表しているか	海外研究活動Ⅰ・Ⅱ、視覚障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、聴覚障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、知的・発達・行動障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、運動障害・病弱講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、音声・言語障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害福祉学講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害原理論講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、博士論文中間・最終発表、学会発表、論文投稿（下線部は選択必修科目あるいは修了要件）

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	9. 障害に関する理解・伝達力：障害科学に関する高度で広範な知識をもち、他者に教える能力	①障害科学に関する専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか	障害科学研究実践法（下線部は必修科目）、博士論文作成
	10. 倫理に関する理解と態度：障害科学に関する研究や実践に必要な倫理の手続きを実行し、他者に教える能力	①研究倫理申請を終了しているか ②障害科学に関する研究に必要な倫理観と倫理的知識を習得し、分かりやすく伝えられるか	視覚障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、聴覚障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、知的・発達・行動障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、運動障害・病弱講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、音声・言語障害講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害福祉学講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害原理論講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、博士論文作成（下線部は選択必修科目）
学修成果の評価に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 学修成果の集大成としての博士論文を重視し、博士論文の作成および博士論文デザイン・中間・最終発表会を通じて、学位授与の方針に基づく学習成果の到達度を総合的に評価する。博士論文の審査等は、主査1名、副査3名で構成される学位論文審査委員会で評価する。</li> <li>- 学位論文に係る評価の基準、ならびに学位授与に掲げる知識・技能（コンピテンス）のうち、未来社会に貢献し得る新たな知の成果またはその期待を有しているか（「知の創成力」）、広い視野から研究課題を設定し、課題を解決する能力を有するか（「マネジメント能力」）、研究内容および研究成果を分かり易く論理的に伝えるとともに、質問に的確に答えられる能力を有しているか（「コミュニケーション能力」）、研究協力者含めさまざまな関係者と協力してリーダーシップを発揮して研究目標を達成できているか（「リーダーシップ力」）、研究知見を国際社会に貢献しようとする意識、国際的な情報収集や国際的成果を発信するための行動に必要な語学力を有しているか（「国際性」）、障害科学に関する独創的な研究を生み出す力を有しているか（「研究発想力」）、障害科学に関する先端的な研究計画および実行力を有しているか（「研究計画実行力」）、研究成果を学術雑誌等に発信できる能力を有するか（「研究発信力」）、障害科学に関する専門知識を分かり易く論理的に説明できる能力を有するか（「障害に関する理解力」）、障害科学の倫理観、倫理的知識に基づいて適切に研究を実施できる能力を有しているか（「倫理に関する理解と態度」）、等の観点から評価する。</li> </ul>		
学位論文に関する評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 博士論文の評価は、提出された論文の査読と最終発表における発表内容及び口頭試問の結果により、以下の観点から総合的に行う。</li> <li>1. 関連分野の国内外の研究動向及び先行研究の把握に基づいて、障害科学分野における当該研究の意義や位置づけが明確に述べられていること。</li> <li>2. 障害科学分野の発展に寄与するオリジナルな研究の成果が、学術論文とする相応しい量含まれていること。</li> <li>3. 研究公正についての十分な知識に基づき、研究結果の信頼性が十分に検証されていること。</li> <li>4. 研究結果に対する考察が妥当であるとともに、結論が客観的な根拠に基づいていること。</li> <li>5. 研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論等が障害科学分野の博士論文に相応しい形式にまとめられていること。</li> </ul>		

### 教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

障害科学学位プログラム（博士後期課程）においては、それぞれの専門領域を中心に障害を有する人の特性の理解およびそれに伴う困難さの克服・解消に向けての研究を自立的に遂行し、その成果を国内外に向けて発信できる研究者または研究能力を有する高度専門職業人を育成する。

<p><b>教育課程の編成方針</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 専門科目（専門分野の講究）により、指導教員と2名の副指導教員との研究課題に関する個別・集団のディスカッション等を通じて、研究計画実行力、研究発想力、研究発信力、倫理に関する理解と態度を身につける。</li> <li>- 基礎科目（障害科学研究実践法）により、障害に関する知識・研究法について、授業担当教員の指導を受けながら、障害科学類の授業補助を行うことで、障害に関する理解・伝達力を身につける。</li> <li>- 基礎科目（海外研究活動）により、国際学会における研究発表や、交流協定を締結する海外の大学等の大学院生との研究交流を通じて、研究発信力を身につける。</li> <li>- 研究倫理に関する研修会により、倫理に関する理解と態度を身につける。</li> <li>- 博士論文に関する発表により、研究発信力を身につける。</li> </ul>
<p><b>学修の方法 特色的な教育</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 博士論文の指導においては、学位論文提出までには指導教員1名（研究指導担当、委員長）、副指導教員2名（委員）の計3名で構成される研究指導委員会が指導にあたる。</li> <li>- 本学位プログラムの教育課程は、博士論文作成のための科目構成となっている。専門分野毎に講究科目を配置し、大学院生は自分の専門とする分野の講究科目群（講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）のいずれか一群を必修科目として履修する。それぞれ講究Ⅰはデザイン発表会（1年次の10月）、講究Ⅱは学術論文への投稿、講究Ⅲは中間発表会（3年次の6月）に臨む要件としている。</li> <li>- 1年次の春学期には、研究倫理のための研修会を授業とは別に設けており、研究倫理に対する態度と、具体的な研究倫理の審査手続きに関する研修を実施している。また、1年次の秋学期には、障害科学研究実践法において、自分の専門分野の研究法を、授業担当教員の指導のもとで、障害科学類開設の授業科目の授業補助者として関与することで教育能力を育成する。</li> <li>- また国際学会での発表や国際交流協定大学の大学院生との研究交流セミナーのための授業（海外研究活動）を通じて、研究者または研究能力を有する高度専門職業人として必要なコミュニケーション能力、国際性、研究発信力を育成する。</li> </ul>

### 入学者受入れの方針 / Admission Policy

<p><b>求める人材</b></p>	<p>障害科学に関わる研究能力を備え、国内外の最先端の研究に強い関心を持ち、将来、障害に関わる教育、福祉、臨床、行政、国際協力等の分野におけるグローバルな視点に立った研究者または研究能力を有する高度専門職業人をめざす人材を求める。</p>
<p><b>入学者選抜方針</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 英語能力検定試験のスコアによる評価、修士論文等の審査、研究計画に関する口頭発表および口述試験により評価を行う。</li> <li>- 入学試験を通じて、入学者の英語力、障害科学に関する研究能力について審査する。</li> </ul>

学修支援体制 / Learning Support Framework

<p><b>学修支援</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 博士論文の指導では、指導教員 1 名、副指導教員 2 名の計 3 名で指導にあたり、学習スキル・時間管理・プレゼンテーション力の支援がさまざまな専門性を有する教員からの支援が行われている。</li> <li>- 年に 4 回の論文発表会（6 月、10 月、11 月、2 月）を設定し、いずれの発表会でも、個々の学生の準備状況・進捗に応じて、デザイン・中間・最終発表（プログラム内予備審査）が可能のように環境を整えている。</li> <li>- 標準的学修課程として 1 年生の 10 月期にデザイン発表、3 年生の 6 月期に中間発表、3 年生の 11 月期に最終発表を計画的に行うよう指導している。</li> <li>- 情報収集能力、分析能力、論理的思考力等の学習スキルやライティングスキルの支援については、各障害学講義を通して、研究論文のレビュー、研究経過進捗確認、研究成果発表を通して支援が行われている。</li> <li>- 例年、科学技術振興機構（JST）次世代研究者挑戦的研究プログラムの公募について、後期課程学生ならびに指導教員に周知し、申請を促している。</li> <li>- 英文学術雑誌への掲載料・校閲費の一部を独自に助成し、大学院生の国際的な研究発信を支援している。</li> </ul>
<p><b>学生同士の交流機会</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 国際交流では、定期的に CIC パートナー校や部局間協定を締結しているアジア並びに北米大学との共同で学生が交流できる機会を設け、国際性の意識向上や国際的研究活動の意欲を高めている。</li> <li>- 年度末に前期課程・後期課程合同の学生懇談会を実施し、学位論文作成や就職活動、その他学生生活に関する情報交換の機会を設けている。</li> <li>- 後期課程修了者の講話と交流を含む内部進学希望者向けの説明会「『障害科学』と歩む自分らしいキャリア」を開催し、上級生や修了生との交流機会を作り、学位取得後の活躍のあり方について考える機会を設けている。</li> <li>- 大学院進学説明会において、修了生に学位取得後のキャリアについて講話ならびに在学生とのディスカッションを実施し、修了生と受験希望者・在学生との交流活動がある</li> <li>- 大学院共通科目で本プログラムが開設（BHE 企画）している科目では、多様な専門性を有する大学院生がチームを組み、新事業を提案する試みがあり、社会課題の解決や学修意欲を高める交流ができています。</li> </ul>
<p><b>教員との交流機会</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 博士論文指導体制では、原則主指導教員 1 名と副指導教員 2 名による研究指導が行われており、多様な専門性を有する教員との交流機会がある。</li> <li>- 教員主催の合同研究会や研究プロジェクトへの参加を通じた交流から、研究意欲を高める機会となっている。</li> <li>- 社会で活躍する修了生との交流会を通して、進路相談や研究キャリアの相談機会を設けている。</li> <li>- RA や研究プロジェクトの研究分担者として共同研究を進める研究領域がある。</li> <li>- 修了時に修了生全員に、修了後も実際に使用するアクティブなメールアドレスの提供を求める形で、同窓会ネットワークを構築している。</li> <li>- 年度末に学位プログラム独自の学生アンケートならびに学生懇談会を実施し、プログラムの教育・研究指導に対する意見交換を行っている。</li> </ul>

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 社会で活躍する修了生に本学位プログラムの外部評価委員を依頼し、修了生から学位プログラムの教育研究指導改善に関するコメントをもらい、ディスカッションをおこなっている。外部からのフィードバックを参考に、教育の質保証と改善の方向性を検討する。
- 年度末に学位プログラム独自の学生アンケートならびに学生懇談会を実施し、プログラムの教育・研究指導に対する意見交換を行い、教育活動の点検と次年度以降の教育改善に向けた取り組みを検討する。
- 前期課程修了後に高度専門職業人として、障害科学の実践現場で従事したのち、実践的課題を十分に理解した者が、後期課程に戻り、研究を再開するようなキャリアパスを継続的に検討することで、教育の質を保証し、学位プログラムの目的達成に向けた体制を強化する。